

## 空間論・環境論の立場から

栗田和弥（東京農業大学）

### 1. 感動を与える空間・環境

元気と感動が、今の日本人の多くには足りないのではなかろうか。社会基盤が一通り整備され、成熟してきたわが国における日常生活にこそ平穩なものとは質を異にする、心を揺り動かす感動という変化を求めているように思える。便利になればなるほど、インターネット等の臨場感溢れる情報が自宅にいながら得られ、それで満足することができうる。自らがスポーツをはじめとして、現場に赴き、身体を動かす活動によって生み出され、競技等の目標を共有して楽しむことで、達成の喜びを味わえたり、競技に参加していなくても応援することで感動の場を共有できる。しかしその場さえも減る傾向にありそうだ。特にオリンピック競技は、選手あるいはそれを応援する市民が、人間の限界に挑む姿に感動し、心を奮い立たせるその代表的なイベントであろう。身体と健康と共に心を育むためのオリンピック。そのような国際的イベントを通じて空間・環境はどのようにレジャー・レクリエーションに寄与してきたか、これから寄与するか、オリンピック資産（レガシー）等の事例からひも解きながらみていきたい。

### 2. ハードウェアとしての空間・環境の整備

オリンピックや、国際的なイベント（本論ではその時代のテーマが打ち出されている国際的規模の博覧会を取り上げることとする）によって生み出される資産の代表としては、開催に伴うインフラの整備が挙げられる（表1）。

まずはスポーツ競技等のイベントを実施する空間が整備されて、その機能が付加・追加されることで様々な振興のために競技終了後も活用することができる。特に過去の冬季オリンピックや国際博覧会は、首都東京以外で開催されていることもあって、人間に例えれば、大動脈だけではなく指先の末端まで新鮮な血液が流れることで、冬の日も温もりを感じることができるようになるのと似ている。最初のオリンピック開催から40年以上

が経過し、代々木体育館などは今や文化財としての呼び声も高い遺産が造られてきた。珍しい例としては、幻のオリンピックともいわれる1940年の未開催ながら造られた戸田漕艇場である。それは今日までずっと利用されている施設であり、わが国のオリンピック史上でも象徴的な存在のハードウェアともいえる。

一方で、自然環境という側面のみから診れば、道路や鉄道の拡充は物流や観光客の輸送増大が期待できたりオリンピック・博覧会開催期間中は選手団や観客、スタッフの輸送のためとはいえ、また延いては地域振興に役立てる事ができるとはいえ、目的遂行を優先するがために自然環境を改変する事例が少なからずある。札幌オリンピックでは、北海道・恵庭岳のスキー競技場候補地が支笏洞爺国立公園内であるということから、大規模な開発行為が望ましくないことということで、競技用に森林を切り開いて造ったスキー場を、その終了後に植林して復元するということが許可された経緯がある。これは、最近ではあまり話題に上らないこの事例ではあるが、スポーツ施設を廃して自然に帰（返）そうという事例はわが国においては稀有な事例かも知れない。1998年、記憶にも新しい長野オリンピックでは、スキー競技種目の滑走区間が長野県・白馬岳の中部山岳国立公園特別保護地区に係る箇所があり、選手はジャンプして飛び越えるから自然公園法に抵触しないという結論で、実施されたような例もある。

スポーツ施設の種類によっては、例えば国民体育大会（国体）では登山競技があるので登山道を新設すること（これは一部の樹木の伐採などの行為を多くは含まれる）もあり開発行為とはみなされないことも多い。しかし、スポーツを行う空間としての自然環境については今まであまり語られてこなかったようで、現状を含め、レジャー・レクリエーションをより充実させていくためにも今後を見守る必要がありそうだ。

表1 わが国における国際的イベント(オリンピックと国際博覧会)とそのレガシーの事例

開催年	通称 (正式名称およびテーマ・備考)	レガシー (現在まで残る, 空間・環境に関連するハードウェアの事例)
1940	東京五輪 (第12回オリンピック競技大会) (開催決定されたが実施されず)	戸田漕艇場, 駒沢オリンピック公園
1940	札幌五輪 (第5回オリンピック冬季競技大会) (開催決定されたが実施されず)	—
1964	東京五輪 (第18回オリンピック競技大会)	国立代々木体育館, 日本武道館, 駒沢公園総合運動場, 代々木公園, オリンピック記念青少年総合センター, 東海道新幹線, 東京モノレール, 首都高速道路, 宿泊施設*
1970	大阪万博 (日本万国博覧会) テーマ「人類の進歩と調和」	太陽の塔, 万博記念公園, 東名高速道路
1975**	沖縄海洋博 (沖縄国際海洋博覧会) テーマ「海-望ましい未来-」	海洋博公園 (国営沖縄記念公園), 沖縄タワー 宿泊施設*
1972	札幌五輪 (第11回オリンピック冬季競技大会)	スキー競技施設, ジャンプ競技施設, 札幌市営地下鉄, 札幌市内の地下街
1985	つくば万博 (国際科学技術博覧会) テーマ「人間・居住・環境と科学技術」	筑波研究学園都市, 科学万博記念公園, つくばエキスポセンター
1990	大阪花博 (国際花と緑の博覧会) テーマ「花と緑と人間生活のかかわりと とらえ21世紀へ向けて潤いのある豊かな 社会の創造をめざす」	パビリオンの移築 (「名画の庭」を京都市に移築, JR西日本福知山線柏原駅等の駅舎として移築), 花博記念公園 (鶴見緑地), 大阪市営地下鉄鶴見緑地線
1998	長野五輪 (第18回オリンピック冬季競技大会)	ジャンプ競技施設, スケート競技施設エム・ウエーブ (長野市オリンピック記念アリーナ), 南長野運動公園, 長野新幹線, 上信越自動車道, オリンピック道路 (長野白馬道路)
2005	愛知万博 (2005年日本国際博覧会) テーマ「自然の叡智」	愛・地球博記念公園 (モリコロパーク), 中部国際空港, リニモ (愛知高速鉄道), あいち海上の森センター
2016	東京五輪**** (第31回オリンピック競技大会)	風の道・緑の回廊「海の森」 (馬術競技施設予定地) ***

補注 \*選手村 (仮設) のみならず, 競技観戦者その他一般宿泊者向けの大型ホテルなど

\*\*1976年まで開催

\*\*\*2016年までに完成が計画されている育成中あるいは建設予定のレガシー

\*\*\*\*2007年12月1日現在, 開催未決定 (2008年6月第一次選考, 2009年10月2日決定予定)

### 3. ソフトウェアとしての空間・環境の活用

2007年から東京都の推進する事業「緑の東京10年プロジェクト」の一環で東京湾に88haの埋立地「海の森」を作って風の道を確保する等、緑地を増やしたり環境対策を講じることで住みやすい都市づくりを行っていくことを進めている。この「10年」のゴールにはオリンピックを見据えているといえるが、「海の森」は同時に馬術競技場とする計画もある。換言すれば、ハードウェアとしての機能のみならず、あるいは競技施設としての機能を必ずしも使わなくても活用されるソフトウェアを重視した一面があり、その他でも「どこでもスポーツ」ができる環境条件を整えていけることが望まれよう。最近はまだ行政を中心とした空間整備の動きのみならず、市民レベルあるいはNPOレベルでの活動を展開し活性化に寄与する部分を考えアクションを興す<sup>3)</sup>等へと発展していることは素晴らしいことである。

### 4. ハートウェア (heart-ware) としての空間・環境をしつらえる

オリンピックを含めた空間・環境づくりを目指すならば、元気で感動できる場となる、平成時代を代表するようなものができないだろうかと思っている。レガシーには3つのステージがあり、必要であると考えられる。すなわちまず、施設やフィールドの空間・環境としてのハードウェアは不可欠であるといえる。次に、それを使う手段・利

用方法としてのソフトウェアが必要であり、さらに、選手も市民もそれに常に関心を寄せ、使いあるいは見守り続け活用していく心の装置、ハートウェア (heart-ware) が重要であろう。そういった意味では東京2016年は、市民主導型でも、参加型でも、行政主導でも、多様な主体による協働で様々な側面からの活動を展開し、たとえ開催国から外れたとしても、あらゆるスポーツの振興につなげ、健康な肉体と健全な精神を併せ持つ市民に育っていく布石となることを期待してやまない。

### 参考文献

- 1) 鈴木伸子：東京オリンピックの遺産（世界からつどう—未来への遺産—），東建月報，no.707, 2007.  
<http://token.or.jp/magazine/g200703.html> (2007.11.20 参照)
- 2) 日本オリンピック委員会：第31回オリンピック競技大会国内立候補都市評価委員会<報告書>，2006.  
[http://www.joc.or.jp/2016/pdf/report\\_2016.pdf](http://www.joc.or.jp/2016/pdf/report_2016.pdf) (2007.11.27 参照)
- 3) 渋谷・青山景観整備機構編：都市文化の創造と渋谷・原宿・青山の将来像—観光立国・オリンピック誘致への受け皿づくり—，2005.  
<http://www.salf.or.jp/activity/report/ofreprot.htm> (2007.11.28 参照)